



新村的地域づくりの「核」となる協議会

これは、近年著しい少子高齢化の進展を背景とした社会環境の変遷とともに、この新村地区においても様々な地域課題が浮上してきています。これらの課題解決には、一部関係者の力だけでは難しく、多くの人が地域の問題としてとらえ、共通認識のもと地域特性を活かした基盤づくりが必要であり、この度協議会の設立に至ったものです。今後は、この協議会においてそれぞれ立場で心配されている様々な課題等について意見交換することで、地域課題の情報共有に努めます。さらに行政や大学、関係機関等とも連携を図りながら、地域課題解決への活動を推し進め、住みよい新村を目指します。



新村の人口・世帯数
平成27年3月1日現在
人口 3,342人
世帯数 1,277世帯

地域づくり推進に「協議会」を設立

3月5日に新村公民館で「あたらしの郷協議会」の設立総会が開催されました。この協議会は、地区内の各種団体が新たに横の繋がりを持つことで、各々が抱える課題等の共有や連携を図りながら、地域づくりを進める組織として結成されたものです。

プチ送迎の今後を議論



2月27日(金)平成26年度のプチ送迎ボランティア総会が開催されました。事業報告として年間115回運行、延べ300人が利用したことが報告されました。新年度の事業計画については、受付業務の見直しや、アイシティールトの増便、弾力的な運行時間の設定等、新たな取り組みに

ついて、活発な議論が行われました。

今後、このような取り組みを実施するにあたり、鍵となるのは会員の拡大です。1月末現在90名の会員数をさらに増やしていくことで、より利用者のニーズにあった事業の展開が可能となります。

プチ送迎事業を「高齢者の足」というだけで捉えず、防災や地域の見守りにも繋がる、広い意味での「地域づくり」と捉えて、地区の皆様のご協力を是非お願い致します。

「新村のまつり」発刊!

新村公民館視覚委員会を中心に組織された「新村の宝編集委員会」は、この度、県の地域発元気づくり支援金を活用して、「新村のまつり」を刊行しました。

これは地域の宝を再発見し、地域の素晴らしさをみんなで共有する事業の一環であり、これまで「新村の石造文化財」「新村の土蔵」を刊行してきました。今回の「新村のまつり」は地域の宝として「まつり」に焦点を当て、寺社や堂宇のまつりから地区の年中行事、祝賀や講などの同姓や氏

により執り行われるまつりまで、幅広く網羅したものです。まつりの進め方には時代の移り変わりと共に変化も見受けられますが、いつの時代でもまつりは、多くの人々を繋ぐ結集の力を持ち続け、地域社会との深い絆を持つてきました。先人が生み、育ててきた「まつり」という地域文化を大切に、次代に引き継いでいくために「新村のまつり」が活かされればと期待しています。



昨年秋、母親を特別養護老人ホーム(特養)に入居させた。介護度5と判定され、自宅で介護は確かに楽ではなかった。しかし、私はまだ頑張れると思っていたし、デイサービスや、ヘルパーさんの助けもあって、何とか生活できていた。歯の無い母用に、朝夕の食事を作り食べさせた。下の始末をして寝かせた。認知症になると子供に返ると云うが、まさにそのとおりであった。徘徊して一日中歩き、童謡を歌う。十数年間そんな暮しが続いた。突然、特養から入居可能との連絡があった。周囲の助言もあり入居を決めた。母を入居させ帰る時「置いていかないで」と言われたら、自宅に連れ帰る覚悟であったが、そんな心配はなかった。帰宅し夕飯の支度、もう母のために食事を作ることもなく、亡くなるまでこの家に帰ることがないのかと思うと、涙に咽た。介護は、お金と家族の手間と言われたが、私はそれ以上にスキンシップが一番だと思う。ただ父が居る、老々介護も間近である。介護の日々はまだまだ続くのである。

穂束八

昨年秋、母親を特別養護老人ホーム(特養)に入居させた。介護度5と判定され、自宅で介護は確かに楽ではなかった。しかし、私はまだ頑張れると思っていたし、デイサービスや、ヘルパーさんの助けもあって、何とか生活できていた。歯の無い母用に、朝夕の食事を作り食べさせた。下の始末をして寝かせた。認知症になると子供に返ると云うが、まさにそのとおりであった。徘徊して一日中歩き、童謡を歌う。十数年間そんな暮しが続いた。突然、特養から入居可能との連絡があった。周囲の助言もあり入居を決めた。母を入居させ帰る時「置いていかないで」と言われたら、自宅に連れ帰る覚悟であったが、そんな心配はなかった。帰宅し夕飯の支度、もう母のために食事を作ることもなく、亡くなるまでこの家に帰ることがないのかと思うと、涙に咽た。介護は、お金と家族の手間と言われたが、私はそれ以上にスキンシップが一番だと思う。ただ父が居る、老々介護も間近である。介護の日々はまだまだ続くのである。

地区から こんにちは

〈南新東町会〉



祝宴の様子

毎年12月の第一日曜日に「合社祭・収穫感謝祭」が開催されています。祭壇を作り、昔から受け継がれる掛軸9本を飾っています。祭壇には、米・塩・野菜・果物・尾頭付きの魚等がお供えとして飾られます。神主さん

の神事が厳かに執り行われ、今年の収穫に感謝するとともに、来年度も多くの収穫がありますように、又大きな災害等起きないように祈願して神事は終了となります。

さて、いよいよ祝宴となりますが、これに必ず出て来る物があります。地元野菜をふんだんに使った女性部の皆さん特製の豚汁です。これはうまい。出席者の大多数の方がおかわりをします。祭りへの出席率が高いのは、この豚汁も大きな魅力になっていると思います。

この良き風習が、今後も長く続けていかれることを願っています。

満蒙開拓平和記念館 視察研修

1月29日、人權啓発推進協議会は、人權啓発の視察研修として、下伊那郡阿智村の満蒙開拓平和記念館を訪れ、22名が参加した。

満5歳の時、渡満した前沢節子さん(81)という語り部のお話しをお聞きした。北満の太古洞では開墾と厳寒との格闘でしたが、貧しくも平穏な日々が続いた。ところが終戦間際突如、ソ連軍の侵攻で満州全土は悲惨な状況に一変

した。特に幼い彼女の脳裏に焼き付いたのは、ソ連兵の傍若無人な略奪と婦女に対する乱暴狼藉であった。幼少期で断片的な記憶の中にあっても、この部分は特にリアルに語りその生々しい記憶が想像された。この研修を通して、戦争と平和、人間の尊厳とは何か改めて深く考える一日でした。



ガイドの説明に熱心に耳を傾ける参加者

松本大学生 ホストアンサー vol.9

Q. ○○ゼミってよく聞くけどどんな活動をしているの？
A. そもそもゼミって何？と思う方が多いと思います。ゼミとは、少人数単位でテーマに沿って研究・討論をする「ゼミナール」という活動です。

観光ホスピタリティ学科は6つのゼミに分かれています。白戸ゼミでは、野菜の引き売り活動や上土地域でのカフェの運営を行っています。

最近では地産地消や家族団欒をテーマとした「信州・まつもと鍋」の開発・販売を行いました。他には、芸術振興を行う山根ゼミや、おもてなしやマーケティングなどを実践的に学ぶ益山ゼミがあります。

障害者就労や海外の孤児支援などを行う尻無浜ゼミでは、東日本大震災後の支援活動として有志を募り、石巻市の小学校で放課後学習支援を行っています。合宿のサポート、震災直後のがれき撤去、小学校内の清掃、一般家庭の引越しの手伝いをすることもありました。

来年度からはゼミナールという科目が必修ではなくなるため、今後さらに学生の自主性が期待されることでしょう。

公研集会 開催される

2月15日中央公民館を会場として、第30回松本市公民館研究集会が開催されました。午前中の基調講演に続き、午後は11の分科会に分散し話題提供や活発な意見交換が行われました。

第6分科会(地域福祉)では、下新南長寿会が新たに取り組みを始めた事例発表がありました。

沈滞化する高齢者クラブを地域福祉のコミュニティとして「身近な高齢者同士の寄り合う場」の活動を始めた。今後は、他の長寿会の活動の指針としても期待される。

公民館活動推進功労者表彰

公研集会の開会式の中で、公民館活動推進功労者への感謝状贈呈式が行われ、新村地区から2名の方が表彰されました。

- 長岡 武彦さん(北新南) 館報編集委員として14年間ご尽力されました。
- 古畑 珠美さん(東 新) 図書委員として8年間ご尽力されました。

長期間の活動 ありがとうございました

真冬の熱戦!

2月1日(日)芝沢体育館にて、第27回新村地区冬季室内競技大会が開催されました。午前の綱引きの部、午後の卓球の部にそれぞれ10町会が参加し、寒さを吹き飛ばす熱戦が繰り広げられました。

綱引きの部

- 優勝 下新北
- 準優勝 上新西
- 第三位 南新東

卓球の部

- 優勝 上新東
- 準優勝 上新西
- 第三位 山王

卓球(小学生)の部

- 優勝 谷本陽向さん
- 準優勝 青木翔馬さん
- 第三位 向山未結さん

